

学校だより

今年度の坂城高校
坂城高校校長 城田真之

新型コロナウイルスに翻弄された昨年度にくらべ、令和3年度は、4月7日(水)の入学式で、62名の新入生を迎え入れ、ある意味「穏やか」なスタートを切ることができました。

学習面では、今年の新入生から、パソコンを購入していただき、坂城高校の生徒全員が自分専用のパソコンを使い学習できる体制が完成しました。今後、パソコンを活用した新しい学びに挑戦していきます。

また坂城高校の学びの大黒柱「坂城学」(総合的な探究の時間)。一部中止となった内容もありましたが、1年生の「葛尾登山、さかき千曲川バラ公園作業」等の体験学習、自己を見つめ、人間関係を円滑にする技術を学ぶ「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」、2年生の「インターシッブ」への取組など計画に従って概ね順調に学習を進めていくことができました。

クラブ活動も例年に近い活動ができるようになりました。昨年中止となった「総体」が今年は開催され、本校運動部も出場しました。その中でハンドボール部は、上位チームと互角に戦い県大会で4位となりました。文化部では、吹奏楽部が他校と合同で演奏会に出演したり、美術部が作



▲1年生 オリエンテーリングの様子



▲2年生 坂城学 Web サイトづくりの様子

品制作とともに校内の装飾にたずさわったり、JRC(青少年赤十字)日常生活における社会貢献を行う)が、ジャグリング(道具を使った芸)や伝統芸能による地域貢献に取り組んだり地道に活動しています。軽音楽部はここ数年自転車盗難防止ソングの制作、演奏活動に取り組んできましたが、この活動について今年6月千曲警察署と更埴防犯協会連合会から表彰されました。

経済産業省「未来の教室」実証事業に取り組んでから3年目の今年はある意味で「集大成の1年」ととらえ活動していきます。

今後とも地域のみなさまの御理解御支援を賜りますようお願い申し上げます。(次回は、今回ご紹介できなかった生徒会活動を取り上げていきたいと思えます。)

1. 備える食品を考える

主食になるもの
ご飯や麺、乾パンなどエネルギーになるもの。

主菜になるもの
たんぱく質を多く含み、おかずになり、保存のきくもの。缶詰やレトルト食品など。

副菜になるもの
ビタミンやミネラル、食物せんいの供給源となるもの。野菜の缶詰、缶ジュースやインスタント味噌汁など。

水
生命維持に欠かせない水は十分な量をとる必要があります。料理を含め1人1日3リットルが目安です。

3. ローリングストック法を实践

最小限備えるべき品物と量の準備をしたら、毎日の生活の中で使い、使った分を買い足していきます。いつも少し多めの状態をキープしておくのがコツで、古いものから順に使っていくようにします。



2. 備える量を考える

栄養のバランスを考えたら、家族の人数や好みも考慮して内容を決め、備蓄する量を計算します。お店には、防災コーナーがあるところもあるので、買い物のついでにチェックしておくことが参考になります。

9月1日は防災の日!
災害時の備えについて考えよう



食育だより

食育・学校給食センター
082-25559